

デザイン工学部

I 2018年度 大学評価委員会の評価結果への対応

【2018年度大学評価結果総評】(参考)

デザイン工学部では、教育内容に関することを中心として、ほぼすべての項目に関して十分な取り組みがなされており、高く評価できる。また、「基盤教育のあり方」や「基盤科目の見直し」といった多様な学生の受け入れに対する取り組みを行っている点も高く評価できる。ただし、限られた人材とインフラで最大限の成果を挙げるといった難しい問題に直面することが予想される。しかし、教員・教員組織の評価に関しては、自己点検の内容からは、建築学科と都市環境デザイン工学科の取り組みと比較すると、システムデザイン学科のFD活動の取り組みに関する具体的な記載がやや少ないように見受けられる。記載内容の充実に期待したい。一方、システムデザイン学科ではクォーター制を活用した海外英語研修が行われており、高く評価できる。

【2018年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】

- ・人材については、定年退職や他組織への移籍等により、3学科で教員の定数を満たしていない状況であるため、2018年度は、各学科とも、時間的な余裕をもって慎重かつ積極的な採用活動を行っていく予定である。インフラについては、面積の拡充こそ難しいが、本年度は、デジファブセンター(3Dプリンターやレーザカッター等を配備)、造形制作室や教室のマルチメディア環境の整備を行って教育環境をより充実させるように努めた。
- ・システムデザイン学科FD活動の大きな取り組みとしては、3年生必修授業の最終発表会に企業からの外部審査員18名を招き、授業内容・取り組みに関する意見交換を行った。また招聘した審査員には学生発表に対する講評にも参加を依頼し、多様な視点・意見をj得る機会として活用した。

【2018年度大学評価委員会の評価結果への対応状況の評価】

デザイン工学部システムデザイン学科では、2018年度からプロジェクト実習制作発表会に招聘した外部審査委員からの指摘事項をFDに反映させる試みが始まった。これにより、他学科より若干見劣りしていた懸案事項は改善されたものと考えられる。

II 自己点検・評価

1 教育課程・学習成果

【2019年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

1.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

①学生の能力育成のため、教育課程の編成・実施方針に基づいた教育課程・教育内容が適切に提供されていますか。

S A B

※教育課程の編成・実施方針との整合性の観点から、学生に提供されている教育課程・教育内容の概要を記入。

<建築学科>

日本技術者教育認定機構により、学士課程と修士課程の2つの教育プログラムの同時認定を取得。これによりUIA(国際建築家連合)提唱の建築家教育基準の認定も兼ね、国際水準をみたく学士課程・修士課程の教育内容となっている。

<都市環境デザイン工学科>

当学科の教育プログラムはJABEE(日本技術者教育認定機構)に認定されており、国際社会が求める技術者人材を輩出する教育内容となっている。3つの専門科目系(都市プランニング系、環境システム系、施設デザイン系)が設定されており、総合デザイン工学に関する教育を行っている。また、9項目の学習・教育到達目標を設定し、各授業において修得可能な能力を定量的に示すことで、様々な素養や能力を計画的・主体的に修得できる教育課程となっている。

<システムデザイン学科>

基礎から専門までを段階的に学習できるよう教育課程を編成している。1年次に工学やシステムデザインの基盤を、2年次にはシステムデザインの3つの系(クリエイション系、テクノロジー系、マネジメント系)の基礎理論と手法を主に学ぶ。3年次は系の選択による専門性の深化とともに、プロジェクト科目によって社会に適用可能な技術や手法を横断的かつ実践的に学ぶ。4年次は、プロジェクト実習や卒業研究・卒業制作を通して専門性の高い知識や技術の習得を目指す。

これらの考え方や科目の構成はカリキュラムツリーやカリキュラムマップと共に履修の手引きに詳しく説明されてい

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

る。	
<p>【2018年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2019年度カリキュラムを大幅に見直し、改定を行った。 ・カリキュラム改定に向けて新たに設置した基盤教育委員会を常設委員会とし、継続的に基盤教育について評価・検討を行うことにした。 	
<p>【根拠資料】 ※カリキュラムツリー、カリキュラムマップの公開ホームページURLや掲載冊子名称等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デザイン工学部生のための履修の手引き ・都市環境デザイン工学科オリジナルサイト<http://civil.ws.hosei.ac.jp/wp/> 	
②学生の能力育成の観点からカリキュラムの順次性・体系的を確保していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※カリキュラム上、どのように学生の順次的・体系的な履修（個々の授業科目の内容・方法、授業科目の位置づけ（必修・選択等）含む）への配慮が行われているか。また、教養教育と専門科目の適切な配置が行われているか、概要を記入。</p> <p>外国語、基盤科目（社会・人文、保健、工学系）、専門科目（学科基礎、学科独自、学部共通）、専門科目の順に、学年進行とともに専門性が段階的に充実するカリキュラム体系をつくり、各年次の進級条件・卒業要件など履修のガイドラインを視覚的に表現している。</p> <p>オリエンテーションの一環である導入ゼミナールでは、各学科が提供する教育カリキュラムを体系的に解説すると同時に、少人数グループ指導により専門教育の導入を行う。</p> <p>年次時系列で見た専門科目間のつながりを履修モデルとして提示し、学生自らによって適切な履修順序を見出しやすい教育体系としている。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デザイン工学部生のための履修の手引き 	
③幅広く深い教養および総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する教育課程が編成されていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※カリキュラム上、どのように教養教育等が提供されているか概要を記入。</p> <p>教養教育と専門教育に関する区分を改め、初年度から専門性を獲得し、最終年に至る過程で両分野を融合的に学習できるカリキュラム体系としている。</p> <p>教養教育は文化歴史に対する包括的な理解を促すと共に、社会的責任を自覚した実践的な職業倫理を鍛えるものとして捉える。具体的には以下の施策として実現。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然科学系教養科目：専門教員が担当し、専門科目との一貫性を確保。 ・外国語教育：英語教育はTOEFL-ITPを熟達度指標とした実践型とし、外部の専門教育組織に委託。中国語・イタリア語系は語学教育をベースに異文化理解を目指した教科として捉える。 <p>基盤科目：経営系、法律系、人文系、工学系の科目から、デザイン工学の実践的側面を補うものを取り揃え、学年を超え配当。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デザイン工学部生のための履修の手引き 	
④初年次教育・高大接続への配慮は適切に行われていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※初年次教育・高大接続への配慮に関し、どのような教育内容が学生に提供されているか概要を記入。</p> <p><建築学科></p> <p>導入ゼミナール（1年次）を設け、初学者に必要な履修・学習方法の指導を行っている。また、数学・物理の知識が不十分な学生に対して補習授業を行っている。</p> <p><都市環境デザイン工学科></p> <p>初年次導入科目として、導入ゼミナールを設けており、初学者のための履修指導および学習指導を行うとともに、コンピュータリテラシー等の基礎教育を行っている。また、高大接続への配慮として、1年生を対象とした力学系、数学系科目では高校数学の復習を適宜講義内容に取り入れており、外国語科目（英語）および物理系科目では習熟度別クラス編成を実施している。</p> <p><システムデザイン学科></p> <p>「導入ゼミナール」（1年次AB期）において、図書館ガイダンスやマナー講座を実施するとともに、フィールドワークやグループワーク形式の授業を取り入れている。また、プレースメントテストの成績を基に、物理の知識が不十分な新入生に対して物理補講を実施している。さらに「システムデザイン入門」（1年次A期）において、全専任教員からシステムデ</p>	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

ザインという学問分野を分野横断的に解説し、学生のそれぞれの立場から学科で学ぶ目標や意味を見つけ、キャリア形成の重要性などを自覚するようにしている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・デザイン工学部生のための履修の手引き
- <建築学科>
- ・授業記録
- <都市環境デザイン工学科>
- ・授業記録
- <システムデザイン学科>
- ・授業資料

⑤学生の国際性を涵養するための教育内容は適切に提供されていますか。

S A B

※学生に提供されている国際性を涵養するための教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。

- ・外国人非常勤講師による講演・講義を開催している。
- <建築学科>
- 2年次、外国人教員担当「Design Basics in English」「特別講義」を設置。
- 3年次、「デザインスタジオ6」に外国人教員による英語での設計教育を導入。大学院の「海外交流プログラム」と連動した「国際ワークショップ」を開催。
- <都市環境デザイン工学科>
- 基礎科目「開発と国際協力」では、海外勤務経験の豊富な技術者を兼任講師として、海外事業、技術の国際性、プレゼンテーションの要点を教授。
- 2年次には工業英語、3年次には工業英語実習において実践的英語を教育（工業英語では試験科目として工業英検3級、4級を導入）。
- <システムデザイン学科>
- 2016年度より南フィリピン大学で、個人レッスン90時間・グループレッスン60時間におよぶ「海外英語研修」（C期、50日間）を実施し、帰国後のTOEICスコアのアップにつながっている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- <学部共通>
- ・デザイン工学部生のための履修の手引き
- <システムデザイン学科>
- ・授業資料

⑥学生の社会的および職業的自立を図るために必要な能力を育成するキャリア教育は適切に提供されていますか。

S A B

※学生に提供されているキャリア教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。

- <学部共通>
- ・少人数制「導入ゼミナール」の中で卒業後のキャリアパス紹介を実施。
- ・3年次「インターンシップ」による実務体験。
- ・実務で活躍する社会人による特別講演会の開催。
- ・実社会の現状・課題等をキャッチアップするため、兼任講師による講義を多く導入している。
- <建築学科>
- 「建築入門」（1年次）を通し専門分野を概覧。演習科目「デザインスタジオ1～2」「造形スタジオ」（1年次）により建築デザインの基礎を習得。キャリア教育として大多数の専門科目を建築士資格指定科目と対応づけている。
- <都市環境デザイン工学科>
- 導入ゼミナール（1年次）におけるキャリアパスとロールモデルの説明、キャリア紹介ビデオの視聴、ゼミナール（3年次）におけるキャリア指導（キャリアセンターによる講演）、技術士説明会（本学科卒業生による講演）、同窓会（法士会）との懇談会（キャリアデザインセミナー）を実施している。
- <システムデザイン学科>
- 「システムデザイン入門」（1年次）の一環として、キャリアセンターの協力を得てキャリアデザインに関する講義を実施するとともに、システムデザイン関連分野の実務者をゲスト講師に招いた講義を行っている。また3・4年次に「インター

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

ンシップ (SD)」を設け、積極的な取り組みを指導している。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。	
<学部共通> ・デザイン工学部生のための履修の手引き ・Web シラバス <建築学科> ・授業記録 <都市環境デザイン工学科> ・授業記録 <システムデザイン学科> ・授業資料	
1.2 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	
①学生の履修指導を適切に行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
【履修指導の体制および方法】 ※箇条書きで記入。	
・学・進学時のガイダンス、導入ゼミナールにおける履修指導。 ・「デザイン工学部生のための履修の手引き」を活用した履修指導。 ・学習達成度自己評価システムを学生に提供している。学生自らが年間履修単位数を点検し、進級卒業要件、資格要件に必要な単位修得状況、GPA などを確認し、達成度の状況に応じて担任教員が学生との面談に応ずる。 ・システムデザイン学科の SSI コースの学生については、一般の学生とカリキュラムが異なるため、履修登録時に別途時間割を確認しながら指導している。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。	
<学部共通> ・デザイン工学部生のための履修の手引き ・ガイダンス日程表 <建築学科> ・IAE サーバー「CARESS」(履修支援システム) の利用案内 <都市環境デザイン工学科> ・学生から提出された「学習達成度自己確認システム」(教員による内容確認済み) の保管資料 <システムデザイン学科> ・2016 年度 SSI 履修要項・講義概要	
②学生の学習指導を適切に行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
※取り組み概要を記入。	
・シラバスに学習に必要な事項を明記。 ・1 年次「導入ゼミナール」において学部課程における学習方法を指導。 ・入学・進学時のガイダンスにおいて、当該学年に特徴的な授業や履修上の注意点等を説明。 ・全教員がオフィスアワーを設定し学生の個別相談に対応。 ・エチュードを活用した指導。 ・各演習科目に配置した TA による学習支援。 ・都市環境デザイン工学科では担任制により学習指導(成績不振学生との面談等)を実施。システムデザイン学科では学年毎に学年担当の教員を配置。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。	
・デザイン工学部生のための履修の手引き ・Web シラバス	
③学生の学習時間(予習・復習)を確保するための方策を行なっていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
※取り組み概要を記入。	
<学部共通> 年間履修制限 49 単位を設け、学習時間を確保しやすい仕組みとしている。授業時間外に教室を開放して学習場所を確保するよう努めている。	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

<建築学科>

学科内の IAE (Integrated Archive Environment) サーバーにより授業成果物を記録し、予習・復習素材として公開。同サーバーの RFC (Request For Comments) 機能により、双方向性の自習が可能。

<都市環境デザイン工学科>

シラバスや授業計画を参考にし、事前に学習すべき内容を学生へ周知。講義では適宜、宿題を課して復習・自習の動機を与えている。実験・実習・演習ではレポート作成によって復習を徹底する授業運営としている。4年生には卒業研究実施記録の作成を指導し、研究内容を日常的に記録・報告させて学生の自己管理を基本とする教育指導体制としている。

<システムデザイン学科>

予習・復習のため、授業支援システムを活用した資料提供や学習指示を行っている。特に演習・実習系の授業では、授業時間外での作品制作やグループワークが行われるため、スタジオルームを授業時間外に開放したり、造形室やゼミ室を利用できるようにしたりするなどの配慮を行っている。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

<学部共通>

- Web シラバス

<建築>

- IAE サーバー「RFC」(Request for Comments) の利用案内

<都市>

- 卒業研究実施記録
- 各授業の講義記録

④教育上の目的を達成するため、効果的な授業形態の導入に取り組んでいますか。

S A B

【具体的な科目名および授業形態・内容等】 ※箇条書きで記入 (取組例: PBL、アクティブラーニング、オンデマンド授業等)。

- 実社会の現状・課題等をキャッチアップするため、兼任講師による講義を多く導入している。

<建築学科>

- 「デザインスタジオ 5~6」 少人数制設計教育 (Hosei Active Learning-HAL スタジオを活用したアクティブラーニング)
- 「フィールドワーク」 グループワークにより街区や建物の調査を行い、図面・模型製作 (PBL 型フィールドワーク)

<都市環境デザイン工学科>

- 「導入ゼミナール」 技術者レクチャーに基づく学業行動計画策定のためのグループワーク (アクティブラーニング)、および技術課題をテーマとするグループ単位のディベート (グループワークによるアクティブラーニング)
- 「デザインスタジオ 1」 紙の小片を組み合わせた架構の構想と制作 (アクティブラーニング)
- 「橋のデザイン」 橋梁の計画と模型製作 (アクティブラーニング)
- 「鋼構造デザイン実習」 鋼構造の計画と模型製作 (アクティブラーニング)
- 「RC 構造デザイン実習」 配筋模型の製作 (グループワークによるアクティブラーニング)
- 「ゼミナール」 卒業研究の疑似体験、技術課題をテーマとするグループ単位のディベート (グループワークによるアクティブラーニング)
- 「デザインスタジオ 2」 対象地区に対する現地調査・課題抽出に基づく改善策の図面化と模型製作 (PBL 型フィールドワーク)

<システムデザイン学科>

- 「海外英語研修」 (2 年次 C 期) 国際性を涵養するための英語によるコミュニケーション能力向上 (個人授業を含む)
- 「ゼミナール 1」 (3 年次 AB 期) 全学生による複数のプレゼミの受講 (多分野融合研究の基礎構築)
- 「プロジェクト実習・制作 2」 (3 年次 CD 期) 製品企画、設計、製造、流通に至る「ものづくり」の過程を総合的・横断的に実習 (多分野融合研究の基礎構築)
- 「応用プロジェクト 1・2」 (4 年次) 本格的な製品企画と、その具現化 (PBL 型科目) および作品の学外コンペティションへの積極的な応募を奨励

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- Web シラバス
- 「海外英語研修」資料

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S: さらに改善した、A: 従来通り、B: 改善していない」を意味する。

⑤それぞれの授業形態（講義、語学、演習・実験等）に即して、1授業あたりの学生数が配慮されていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※どのような配慮が行われているかを記入。</p> <p>全学科で実施している導入ゼミナール（1年春学期）では、全専任教員が担当することで少人数の新入生とのコミュニケーションを図り、専門教育への円滑な導入を図っている。建築学科では学生個別の指導が必要な「デザインスタジオ」「造形スタジオ」等のデザイン系演習科目について、学年を3ないし4クラスに分割して少人数授業を実施している。都市環境デザイン工学科では、数学・物理等の基礎的科目および「RC構造デザイン」「鋼構造デザイン」などの講義科目、「工学実験1」などの実験科目、「測量実習」「デザインスタジオ2」などの実習科目において2クラスに分割して少人数での学習指導を実施している。システムデザイン学科では「図形科学基礎演習」「プログラミング基礎演習」「デジタルデザイン演習」「3Dモデリング（クリエイション系/テクノロジー系）」などの演習科目において2クラスに分割して少人数での指導を実施している。</p>	
<p>【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> デザイン工学部生のための履修の手引き 	
1.3 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	
①成績評価と単位認定の適切性を確認していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>【確認体制および方法】※簡条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> 成績評価に対する疑義については、成績調査により対応。 必要に応じて解答用紙を開示し、採点理由を説明。 ガイダンス時および、履修の手引きやシラバス上で成績評価方法と基準を学生へ明示し、JABEEプログラム責任者（建築、都市）を中心に成績評価・単位認定の妥当性を検証。 採点結果報告書（成績原簿）を作成・保管し、必要に応じて成績分布を確認するシステムを採用。グループワーク等、各人のグループ成果への貢献度の定量評価が難しい科目では、役割分担を明らかにするなどの対策を講じている。 	
<p>【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> デザイン工学部生のための履修の手引き Webシラバス 成績評価の調査について（掲示） 成績調査願 	
②厳格な成績評価を行うための方策を行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※取り組み概要を記入。</p> <p>シラバスに明記された方法に整合する成績評価を行っている。出席管理システムに学科で統一した遅刻時間、欠席とする時間設定を設け、欠席回数も統一したルールで評価。成績評価項目（レポート、中間、期末試験など）での評価比率をシラバスに掲載し、成績を適正に評価している。</p> <p>年度末等に開催される講師懇談会・授業打ち合わせ会等の場で、成績の厳正評価を兼任講師を含む全教員で共通認識とすることを徹底している。</p>	
<p>【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p><建築学科></p> <ul style="list-style-type: none"> 日本技術者教育認定基準（2012年度～）、日本技術者教育認定基準共通基準（2012年度～） <p><都市環境デザイン工学科></p> <ul style="list-style-type: none"> 日本技術者教育認定基準（2012年度～）、日本技術者教育認定基準共通基準（2012年度～） <p><システムデザイン学科></p> <ul style="list-style-type: none"> Webシラバス 	
③学生の就職・進学状況を学部（学科）単位で把握していますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
<p>※データの把握主体・把握方法・データの種類等を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> 就職担当教員を中心に求人や内定状況に関する就職活動情報を収集・管理し教室会議で報告 学科ごとに集計した進路情報をキャリアセンターに情報提供 	
<p>【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p><学部共通></p>	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基礎的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

<p>・デザイン工学部パンフレット</p> <p><建築学科></p> <p>・教室会議議事録</p> <p><都市環境デザイン工学科></p> <p>・就職担当教員による収集資料、キャリアセンターへの情報提供資料</p> <p><システムデザイン学科></p> <p>・教室会議議事録</p>	
<p>1.4 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。</p>	
<p>①成績分布、進級などの状況を学部（学科）単位で把握していますか。</p>	<p>はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/></p>
<p>※データの把握主体・把握方法・データの種類等を記入。</p> <p><建築学科></p> <p>・GPCAの算出により授業ごとの成績分布を把握している。</p> <p>・成績原簿を作成・保管しており、教員ごとに必要に応じて成績分布の検証に供する。</p> <p>・4年次への進級にあたり進級要件を設けており、留級や要注意学生などの状況は教室会議で確認している。</p> <p><都市環境デザイン工学科></p> <p>・GPCAの算出により授業ごとの成績分布を把握している。</p> <p>・各年次への進級にあたり進級要件を設けており、春学期・秋学期終了時に成績不振者や留級者の状況を教室会議で確認、担任教員が個別面談により学習指導を行っている。</p> <p><システムデザイン学科></p> <p>・GPCAの算出により授業ごとの成績分布を把握している。</p> <p>・留級や成績不振学生などの状況を教室会議で確認している。</p>	
<p>【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p><建築学科></p> <p>・教室会議議事録</p> <p><都市環境デザイン工学科></p> <p>・教室会議議事録</p> <p><システムデザイン学科></p> <p>・教室会議議事録</p>	
<p>②分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標の適切な設定または取り組みが行われていますか。</p>	<p>S <input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/></p>
<p>※取り組みの概要を記入。</p> <p><建築学科></p> <p>「デザインスタジオ」などの演習科目では、科目内でいくつかのステップに分けた小課題を設定し、順番に学習していくことで最終的な到達目標を明確化している。課題ごとの講評会は全員が参加する事で、学生自身が振り返りを行い達成度を確認している。</p> <p><都市環境デザイン工学科></p> <p>学科で設定した学習到達目標に対する達成度を自己評価することのできるエクセル入力シートを年2回記入させ、学生自身に学習成果を客観的に認識させる取り組みを行っている。また、3年次科目「総合演習」の演習問題に、学習成果を測定する指標として、関連する学協会が主催する公的な資格試験や公務員試験の問題を取り入れ、学生が客観的に実力を認識できる構成にする取り組みを行っている。</p> <p><システムデザイン学科></p> <p>奨学金やゼミ所属、就職、大学院進学などはGPAに基づき基準を設け順位付けを行い、評価している。応用プロジェクトや卒業研究・卒業制作等で具体化された作品は、積極的に学外コンペティションへ応募することを奨励し、毎年、いくつかの作品が賞を受賞している。</p>	
<p>【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・教室会議議事録</p>	
<p>③具体的な学習成果を把握・評価するための方法を導入または取り組みが行われていますか。</p>	<p>S <input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/></p>
<p>※取り組みの概要を記入（取り組み例：アセスメント・テスト、ルーブリックを活用した測定、学修成果の測定を目的と</p>	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

した学生調査、卒業生・就職先への意見聴取、習熟度達成テストや大学評価室卒業生アンケートの活用等)。

<建築学科>

学習・教育目標に関する学習達成度自己評価システムを構築・提供し、学生自身が学期ごとに自己確認できるようにしている。「デザインスタジオ」などの演習科目で最終講評会を開催し、教員が横断的に学習成果の達成度を確認している。

<都市環境デザイン工学科>

学習達成度自己評価システムを利用した学習達成度の確認作業によって学生自らが学修実績を振り返り、今後の履修に対する心構えを教員に報告している。各学生の担任教員は、その報告に基づいて学習・教育到達目標毎の達成度や学習効果を定量的に把握・確認している。

<システムデザイン学科>

就職状況や学内外の各種コンペティションの受賞状況から判断している。2013年4月に学習達成度自己評価システムを導入し、2017年度4月からは工学学習支援システムに移行して同様に実施しており、学生の志望や志向、履修状況の履歴等を確認できるようになっている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

<建築学科>

- ・IAEサーバー「CARESS」(履修支援システム)の利用案内

<都市環境デザイン工学科>

- ・学生から提出された「学習達成度自己確認システム」(教員による内容確認済み)の保管資料

④学習成果を可視化していますか。

S A B

※取り組みの概要を記入。取り組み例：専門演習における論文集や報告書の作成、統一テストの実施、学生ポートフォリオ等。

<建築学科>

- ・設計作品、卒業論文、卒業設計については、作品集、論文集を刊行
- ・3.4③で述べたIAEサーバーのRFC機能により、学生による研究成果や作品の発信を図っている。
- ・IAEサーバーを利用して学生がポートフォリオ(e-Portfolio)を作成可能
- ・演習系の科目では、学期ごとに優秀作品を学内に展示。

<都市環境デザイン工学科>

- ・デザインスタジオや景観デザインに関する学生コンペでの優秀作品を展示するとともに、業績をパンフレット・教室ホームページ・教室棟回廊に公開している。
- ・卒業論文概要を収録したCD-ROMを作成し、次年度の在学生に配布している。また、学科オリジナルサイトにおいて卒業論文概要を学内に開示している。
- ・学会などにおける学生の受賞をホームページに報告している。
- ・学習達成度自己評価システムによって学習・教育到達目標毎の達成度、GPA、進級・卒業・技術者資格取得に要する取得単位充足状況を定量的に評価している。

<システムデザイン学科>

- ・学内外の各種コンペティションの受賞状況をホームページで公開している。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

<建築学科>

- ・IAEサーバー「RFC」(Request for Comments)の利用案内
- ・『HOSEI STUDIOWORKS』(作品集)
- ・『建築研究』(論文集)

<都市環境デザイン工学科>

- ・市ヶ谷田町校舎内の回廊展示資料
- ・卒業論文・修士論文概要CD-ROM
- ・都市環境デザイン工学科オリジナルサイト
- ・学生から提出された「学習達成度自己確認システム」(教員による内容確認済み)の保管資料

<システムデザイン学科>

- ・法政大学デザイン工学部ホームページ

1.5 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

向上に向けた取り組みも行っているか。	
①学習成果を定期的に検証し、その結果をもとに教育課程およびその内容、方法の改善に向けた取り組みを行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※検証体制および方法、改善・向上に向けた取り組みの概要を記入。</p> <p><建築学科></p> <ul style="list-style-type: none"> ・JABEE（日本技術者教育認定機構）のプログラム認定審査年度に、成果の公開展示を兼ねた教育内容の振り返りを行っている。 ・カリキュラムの見直し期には、学科内委員会を発足させてこれにあたっている。 <p><都市環境デザイン工学科></p> <ul style="list-style-type: none"> ・JABEE（日本技術者教育認定機構）による認証評価を受診、認定を受け、評価結果をもとに教育全般の改善を行っている。 ・毎学期あるいは毎年実施される授業改善アンケートや卒業生対象のアンケート調査を実施してその結果を分析し、学生・卒業生の意見に基づく教育効果を多角的に計測して教育改善を図っている。 ・同窓会（法土会）主催の社会工学セミナーや同窓会（法土会）との意見交換会を実施することにより、自立力ある技術者人材を輩出するための教育・研究のあり方を議論している。 ・3年に一度を目処に外部有識者数名からなる「教育評議員会」を開催し、教育課程およびその内容についての評価を受けている。 <p><システムデザイン学科></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教室会議や年度末の授業打合せ会にて学生の履修情報を教員間で交換し、授業内容・方法の見直しの機会としている。 <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p><学部共通></p> <ul style="list-style-type: none"> ・デザイン工学部生のための履修の手引き ・学則変更新旧対照表 <p><建築学科></p> <ul style="list-style-type: none"> ・建築 JABEE 運営委員会議事録 ・教室会議議事録 <p><都市環境デザイン工学科></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教室会議議事録（法土会との意見交換会議事録を収録） ・拡大教室会議の配布資料・議事録（WG 活動報告を収録） ・法土会会報（社会工学セミナー実施報告を収録） ・教育評議員会の配布資料・議事録 <p><システムデザイン学科></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教室会議議事録 ・授業打合せ会案内 	
②学生による授業改善アンケート結果を組織的に利用していますか。	S A B
<p>※利用方法を記入。</p> <p><建築学科></p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業改善アンケートからの「気づき」をシラバスに明記し学科内で共有。 <p><都市環境デザイン工学科></p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業改善アンケート結果に基づき各科目担当教員が次期授業改善計画を作成し、次期授業の改善に反映させている。 ・学科独自の授業改善アンケート結果に基づいて教員に優秀授業賞を授与し、教育業務へのインセンティブを与えて教育を継続的に改善する仕組みとしている。 ・授業評価の高い科目とその担当教員の一覧を学内掲示板と授業支援システム（エチュード）に開示し、全教職員および学生に周知することで、継続的な授業改善の仕組みを作っている。 <p><システムデザイン学科></p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業改善アンケート結果の内容を各教員が照査し、特徴的事象については、教室会議や毎年度末に実施している授業打合せ会において情報交換を行い、授業内容の見直しに活用している。 <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p><建築学科></p>	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

- ・ Web シラバス
- ＜都市環境デザイン工学科＞
- ・ 教室会議・拡大教室会議議事録
- ・ エチュード「お知らせ」
- ＜システムデザイン学科＞
- ・ 授業打合せ会案内

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
<ul style="list-style-type: none"> ・各学科から選出された委員からなる質保証委員会を年4回開催し、教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針の適切性、シラバスを学科相互に検証している。 ・建築学科と都市環境システム学科は JABEE（日本技術者教育認定機構）による認証評価を受診、認定を受け、評価結果をもとに教育全般の改善を行っている。 ・全学科において、教員と外部の有識者または兼任講師からなる外部評価委員会等を設置、点検・評価の実施を行い、教育内容・システムの改善を進めている。 ・国際性を涵養するための英語によるコミュニケーション能力向上を目的として海外英語研修システムを導入、実施している。外国人非常勤講師による講演・講義を開催している。 ・実社会の現状・課題等をキャッチアップするため、兼任講師による講義を多く導入している。 ・学習達成度自己評価システムの導入し、委員会による継続的な改善に取り組んでいる。 	3. 2③ 3. 3⑤⑥ 3. 4⑤⑦ 3. 6③④ 3. 7①

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
<ul style="list-style-type: none"> ・従来型の講義を念頭に装備された教室が多く、デザイン工学部特有の演習科目など新しい形態の授業に対応しきれないなど施設上の課題があり、PBL やアクティブラーニングの推進のためにも早急に改善する必要がある。 ・授業時間外の学生の作業スペース確保のため、市ヶ谷田町校舎入り口にディスプレイを用いた空き教室掲示などの工夫を実施し、空き教室の有効活用に努力しているが、なおスペースが足りず入口ホールなどの空きスペースで学生が作業を行わざるを得ない状況である。 ・スペース及び施設の拡充について大学全体として継続的に検討していく必要がある。 	

【この基準の大学評価】

①教育課程・教育内容に関すること (1.1)

デザイン工学部の履修の手引きには、学部共通・学科別それぞれに、教育目標と3ポリシーが明示され、それを実現するためのカリキュラムマップ等が示され、教育課程の編成・実施方針と教育課程・内容との整合性が明確化されている点が評価できる。専門科目に於いてはカリキュラムの順次性・体系性が高い次元で達成されている。教養科目については、理系科目が専門科目の体系と整合するような教員配置がなされているのに対して、その他の基盤科目が、社会的責任感と職業意識の涵養に寄与するとして、高学年次まで配当されている点が高く評価できる。初年次教育では、導入ゼミナールを設置して、リテラシー教育にとどまらず、履修指導・学習指導にまで踏み込んだ教育を行っている。また、各学科で形態こそ異なるものの、数学・物理といった専門教育の基盤となる高等学校科目についてリメディアル教育を行うことで、高大接続が実現されている。国際性の涵養は、各学科とも上級レベルの英語教育プログラムを配置することで対応している。加えて都市環境デザイン工学科では、語学教育に留まらず基礎科目「開発と国際協力」において海外業務を学べる講座を配置している点が評価できる。キャリア教育は、初年次の導入ゼミナールでの指導から始まり、各学科が高学年次により実践的な社会体験プログラムを配置していることで、達成されている。以上、教育課程・教育内容については、全く問題無いレベルであると判断できる。

②教育方法に関すること (1.2)

第一に、デザイン工学部の履修の手引きは、学生にわかりやすく工夫されており秀逸である。履修の手引きに明確化された手続きについて、入学・進学時のガイダンス及び導入ゼミナールで履修指導が行われている。建築学科では IAE サー

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

バーを利用した学生の学習履歴の記録、都市環境デザイン工学科では「学習達成度自己確認システム」によって個別の学習履歴に基づいた履修指導が可能となっている。学習指導についても、1年次の「導入ゼミナール」を活用した学科別対応や、オフィスアワーを活用した個別指導まで行われている。学習時間の確保は、年間履修登録単位数の制限による確保のほか、建築学科ではIAEサーバーを活用した自習時間の確保、都市環境デザイン工学科・システムデザイン学科では、演習・実習授業で授業時間外での取り組み課題を設定して自習時間を確保している。また、理科系ならではの多彩な実習・演習授業が設定され、アクティブラーニングやグループワークの機会が多く設定されている。1授業あたりの学生数については、「導入ゼミナール」を全教員が担当することで、少人数制の維持に努めると共に、実習・演習授業でも学生をクラス分割することで、適正な受講者数の維持に努めていることがうかがえる。以上、教育方法に関する取り組みは十分達成できていると判断できる。

③学習成果・教育改善に関すること (1.3~1.5)

デザイン工学部の成績評価は、学生からの検証システムが完備され、更に配点分布の客観的な分析が行われている。成績評価の項目などをシラバスに明記する事で客観性を保ちつつ、出席管理システムも合わせて使われていることから、厳格な成績評価が達成されている。学生の就職・進学状況は学科ごとに集計され、キャリアセンターに情報提供されている。進級・成績分布の確認も、学科単位で行われている。建築学科と都市環境デザイン工学科では、演習における学習到達目標の設定、システムデザイン学科ではGPAにおける順位づけを取り入れ、学習成果の測定を行っている。これらの成果を定量的に測定することで客観的に把握すると共に、学習達成度自己評価システム（システムデザイン学科はデ工学修支援システム）により、学習達成度の自己評価も行っている。学習成果の可視化は、特に建築学科のIAEサーバーを利用したポートフォリオ機能に期待ができる。さらに、学内外のコンペの成績の公開などの工夫を行っている。

学習成果の検証については、建築学科と都市環境デザイン工学科では、JABEEのプログラム認定審査に合わせた学習成果の検証を行っている。システムデザイン学科では、年度末の教員会議で学習成果の検証を行っている。授業改善アンケートの組織的活用については、学科独自のアンケート結果を継続的な教育改善に活かすための都市環境デザイン工学科の取り組みが、特筆に値する。

2 教員・教員組織

【2019年5月時点の点検・評価】

2.1 教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。

①学部（学科）内のFD活動は適切に行なわれていますか。

S A B

【FD活動を行うための体制】※箇条書きで記入。

<学部共通>

- ・毎年度末に講師懇談会を開催し、兼任教員と教育技術嘱託を交え教育内容・方法等の改善を検討
- ・学生による授業評価アンケートの実施

<建築学科>

- ・JABEE（日本技術者教育認定機構）研修会への代表教員の参加と研修報告

<都市環境デザイン工学科>

- ・JABEE（日本技術者教育認定機構）研修会への代表教員の参加と研修報告
- ・学内外で実施されるFD推進活動への参加と日常的実践ならびにFD活動報告書の提出
- ・授業のビデオ画像の自己点検と相互視聴、「学生による授業評価アンケート」結果および「採点評価」結果に基づく「次期授業改善計画」の策定とその実現など、授業改善を継続的に図る仕組み・制度の整備

<システムデザイン学科>

- ・教室会議において、授業の実施状況や内容、スケジュール管理、課題等に関して議論

【2018年度のFD活動の実績（開催日、場所、テーマ、内容（概要）、参加人数等）】※箇条書きで記入。

<建築学科>

1) JABEE 審査員研修会 7/28（土） 建築会館

（内容）認定制度の考え方と基本方針／認定基準の解説／審査の手引き／プログラム点検書・審査報告書／一斉審査方式の概要／予備審査と暫定認定の概要／質疑応答

2) JABEE 建築分野受審・審査セミナー

（内容）必要に応じてe-learningを使用する。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

3) 2019 年度審査基準改定について 8/20 (月) 建築会館

(内容) JABEE の動向／エンジニアリング系学士の受審・審査における注意点／建築系学士修士の受審・審査における注意点／国際認定の現状／2019 年度以降の JABEE 審査に関する審査基準改定について／質疑応答

4) 2019 年度審査基準改定について 2018/11/20 (火) 芝浦工業大学

(内容) 同上

<都市環境デザイン工学科>

- ・授業のビデオ撮影 (春夏・秋冬学期中の各 1 回、専任教員が担当する専門科目の講義・実習・演習・実験の一部)
- ・次期授業改善計画の作成 (毎学期・全科目)
- ・JABEE 教育プログラム認定・審査のための受審校研修会、2018 年 5 月 12 日、土木学会 講堂、専任教員 1 名
- ・第 25 回社会工学セミナーの聴講、2018 年 7 月 11 日、法政大学市ヶ谷田町校舎、専任教員 1 名
- ・黒部川における水理学・河川環境工学の教材収集、2018 年 9 月 27-29 日、黒部川、専任教員 1 名
- ・利根川水系吾妻川における水理学・河川環境工学の教材収集、2018 年 10 月 3 日、吾妻川ならびに八ッ場ダム、専任教員 1 名
- ・情報メディア教育研究センターシンポジウム 2019 への参加、2019 年 2 月 28 日、市ヶ谷キャンパスポアソナードタワー、専任教員 1 名
- ・法政大学スーパーグローバル大学創成支援事業シンポジウムへの参加、2019 年 3 月 1 日、法政大学市ヶ谷キャンパス 外濠校舎、専任教員 1 名

<システムデザイン学科>

1) プロジェクト実習制作最終発表における外部審査員の招聘。(2019 年 1 月 16 日、招聘数：18 名)

- ・授業内容、取り組みに関する教員との意見交換会。
- ・学生作品へのフィードバック・コメント。
- ・審査員賞の設置・授与。

2) 授業打合せ会の開催 (2019 年 3 月 6 日、市ヶ谷田町校舎、参加教員 42 名)

- ・授業実施状況
- ・授業内容・授業運営に関する意見交換
- ・改善点の共有

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

<建築学科>

- ・教室会議議事録

<都市環境デザイン工学科>

- ・教室会議議事録
- ・拡大教室会議の配布資料・議事録 (FD 活動報告書、WG 活動報告を収録)
- ・各授業担当者が作成した授業改善計画書 (次期授業改善計画を収録)

<システムデザイン学科>

- ・教室会議議事録

②研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化や資質向上を図るための方策を講じていますか。

S A B

<デザイン工学部>

- ・当学部の教員が主体となって活動している「エコ地域デザイン研究所」及び「江戸東京研究センター」と協力して、公開講座などを実施している。また、多くの教員が学会などに協力して、シンポジウムなどの講師を務めている。

<建築学科>

- ・公開講座を実施している。
- ・例年 5 月下旬の土曜日に、学科同窓会と連携して、専任教員全員、1 年生全員、その他の学年の学生有志、卒業生が、「ウォークラリー」と称する街歩きを行っている。「ウォークラリー」では、特徴ある建築や街の姿に触れることにより、学習の動機付けを図っている。

<都市環境デザイン工学科>

- ・卒業生対象ではあるが、教員及び学外有識者の教育研究成果に基づく社会工学セミナーを実施している。
- ・学外組織と共同研究、受託・寄付研究等を行うことにより教育研究の推進を図るとともに社会への研究成果の還元を行っている。

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S: さらに改善した、A: 従来通り、B: 改善していない」を意味する。

<システムデザイン学科> ・公開講演会を実施している。 学外組織との共同研究・受託研究・寄付研究等を行うことにより、産官学連携による教育研究の推進を行っている。また積極的に学外コンペ等に作品や成果を応募するようにしている。
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。
<デザイン工学部> ・「エコ地域デザイン研究所」パンフレット
<建築学科> ・「国際ワークショップ」のポスター ・「ウォークラリー」ポスター
<都市環境デザイン工学科> ・「社会工学セミナー」パンフレット ・研究開発センター「研究実績・採択実績」のURL ・「外濠市民塾」パンフレット

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
特になし	

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
特になし	

【この基準の大学評価】

デザイン工学部建築学科と都市環境デザイン工学科では、JABEE のプログラム認定に伴う教員の研修を FD 活動の中心に設定している。これに対して、システムデザイン学科では、従来の教員会議における教員相互の意見交換が FD 活動の中心とされていたが、2018 年度からはプロジェクト実習制作最終発表会に招聘した外部審査委員からの指摘事項を FD 活動に反映させる試みが開始されたことは評価できる。これらの活動に個々の教員が積極的に取り組むことで、FD 活動の効果が期待できる。研究活動や社会貢献等の活性化は、基本的には公開講演会により担保されている。特に、理科系の教員は、公開講演会を通じて一般市民と同一レベルの視線を持つことが、社会により役立つ研究活動の発見につながる側面を持つことから、公開講演会が有効に機能しているものと思われる。

III 2018 年度中期目標・年度目標達成状況報告書

No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】	
1	中期目標	1)カリキュラムポリシーの見直しを行い、開講科目の体系を再構築する 2)高学年における英語教育のあり方について検討する	
	年度目標	1)基盤教育のあり方を再検討し、基盤科目の見直しを行う 2)サマーセッションやオータムセッションを利用した海外英語研修の実施方法を検討する	
	達成指標	検討結果をまとめた報告書の作成	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	S
		理由	基盤教育を中心にカリキュラムを全面的に見直し、大幅に学則変更を行った。2019 年度より新プログラムをスタートさせる。また、オータムセッション日程を一部利用することで中期の海外英語研修日程を確保した。
		改善策	—
質保証委員会による点検・評価			
所見	1)基盤教育の見直しが学部全体で行われており、当初目標を超えて、実施に至ったことは評価できる		

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

			2) オータムセッション期間を利用して中期間の海外英語研修を実施する計画が教授会で承認されており評価できる。	
		改善のための提言	海外英語研修については、サマーセッションやオータムセッション内で実施する短期のコースも今後検討されたらよい。	
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】		
2	中期目標	1) 効果的な実習のための造形製作室の再整備を検討する 2) 自動集計システム「授業支援ボックス」と授業支援システムを活用した授業方法の検討		
	年度目標	1) 造形製作室の活用方法を検討し、本年度の特別事業（備品等購入）で優先的に予算確保を行い造形製作室の再整備を実施する 2) 2.3の科目で「授業支援ボックス」を利用し、その活用方法を検討する		
	達成指標	造形製作室の利用方法の明文化と設備の導入 「授業支援ボックス」の利用結果の報告		
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価		
		自己評価	S	
		理由	教授会において造形製作室の備品購入に一本化して特別事業に申請することを決議し、予定していた全ての予算を確保することができた。2019年度に順次導入される。いくつかの授業科目で試行的に授業支援ボックスを利用した。	
		改善策	-	
		質保証委員会による点検・評価		
		所見	学部で申請の一本化を図り、当初目標の備品を全て購入できたことは評価できる。	
	改善のための提言	造形製作室についても授業支援ボックスについても教育効果について引き続き調査していくことが大切である。		
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】		
3	中期目標	稼働中の学習達成度評価システムの見直しを行い、より使いやすいシステムの再構築		
	年度目標	本システムに関わる委員会において、新システムの構想を検討する		
	達成指標	新システムの仕様に関する報告書の作成		
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価		
		自己評価	S	
		理由	カリキュラムの大幅変更に伴い、2019年度より新システムに切り替える必要があるため、当初目標よりさらに先の新システム構築を行った。2019年度より稼働させる。	
		改善策	-	
		質保証委員会による点検・評価		
		所見	カリキュラム改定に伴い、当初目標であった仕様の検討を超えて具体的なシステムまで完成したことは評価できる。	
	改善のための提言	-		
No	評価基準	学生の受け入れ		
4	中期目標	多様な入試経路で受け入れた学生の学びに対する実態を把握し、入試経路の妥当性を検証する		
	年度目標	より効果的な学習支援を行うため、多様な入試経路の学生に対する、入学前教育やプレテストなどを見直し、入学学生の学びに対する実態把握方法を検討する		
	達成指標	入学前後の学びに対する実態把握方法に関する報告書の作成		
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価		
		自己評価	A	
		理由	入学前後の教育に関わる予算と効果について学科の意見聴取を行い、実態把握に務めるとともに、今後について検討した。	
		改善策	ロジカルライティングなど一部についての扱いについて調整がつかず、委員会を設けて来年度に継続検討することになった。	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

		質保証委員会による点検・評価	
	所見	実態調査を通じて、見直しまで検討したことは評価できる。ただし、一部、結論が得られていない状況であり、引き続きの検討が必要である。	
	改善のための提言	委員会を作って検討する執行部提案に賛同するが、検討が長引かないよう、早めに結論を出す必要がある。	
No	評価基準	教員・教員組織	
5	中期目標	基盤教育の新しいあり方に沿った専任教員の配置と、適切な年齢構成への移行	
	年度目標	専門を担当する専任教員の基盤教育科目の関わりについて検討する	
	達成指標	専門教員の基盤科目担当実態調査と新担当に関する報告書の作成	
		教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S	
	理由	カリキュラム改定において、専任教員の基盤教育への関わりについてもあわせて検討し、2019年度からの担当を決めた。これまで以上の専任教員が基盤教育に関わることになっている。	
	改善策	本目標の達成に伴い、専任教員が4.75人（通年19コマ）分の基盤教育を担当することになるが、9名の返還・凍結により教員への負荷が増大する。現在、理事会に対して、返還解除を依頼しており、学部長会議資料にはその旨が記載されているが、決定には至っていない。	
		質保証委員会による点検・評価	
	所見	基盤教育への専任教員の関わりが具体化されており評価できる。ただし、その分専任教員への負荷が増大するので対策が必要である。	
	改善のための提言	返還・凍結の解除に向けて、理事との交渉を続ける必要がある。	
No	評価基準	学生支援	
6	中期目標	学習達成度評価システムと併せて、リプレイスを前提とした学生カルテ、履修計画支援システムの見直しを行い、より使いやすく、フィードバック可能なシステムの検討	
	年度目標	本システムに関わる委員会において、新システムの構想を検討する	
	達成指標	新システムの仕様に関する報告書の作成	
		教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S	
	理由	カリキュラムの大幅変更に伴い、2019年度より新システムに切り替える必要があるため、当初目標よりさらに先の新システム構築を行った。2019年度より稼働させる。	
	改善策		
		質保証委員会による点検・評価	
	所見	カリキュラム改定に伴い、当初目標であった仕様の検討を超えて具体的なシステムまで完成したことは評価できる。	
	改善のための提言	-	
No	評価基準	社会連携・社会貢献	
7	中期目標	オープンキャンパス時に実施しているデザインスクールなどの公開講座を見直し、受験生だけでなく、社会貢献を意識した一般人を対象とする講座への展開を検討する	
	年度目標	デザインスクールの内容を受験生に限定しないものに変更可能か、本年度のデザインスクールを通して検討する	
	達成指標	本年度のデザインスクールの結果をもとに報告書を作成	
		教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S	
	理由	デザインスクールについて各学科の意見聴取を行い、受験生に限定しない方向で開催することがきまった。2019年度より実施する。	
	改善策	-	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

	質保証委員会による点検・評価	
	所見	デザインスクールの見直しを検討した新たな方向性を出したことは評価できる。ただし、効果について継続調査する必要がある。
	改善のための提言	今回の改定による効果等を評価するため、受講生のアンケートを取るなどして組織的に検討するとよい。
【重点目標】		
カリキュラムポリシーの見直しを行い、開講科目の体系を再構築するなかで、基盤教育のあり方を再検討し、基盤科目の見直しを行うことが最も重要な目標と位置付けている。各学科から2名の委員と執行部、事務担当で基盤教育検討委員会を設置し、本年度から活動を開始している。		
【年度目標達成状況総括】		
カリキュラムの抜本的な見直し作業を行い、それを実行に移したため、本年度は多くの目標において、当初予定より一歩進んだ達成度が得られた。今後、中期目標を達成するため、追跡調査等を継続し、改革を実のあるものにしていく必要がある。		

【2018年度目標の達成状況に関する大学評価】

デザイン工学部では、基盤教育を中心としたカリキュラム改革と、それにタイミングを合わせた学習達成度評価システムの更新が完了し、達成目標を上回る進捗状況で2019年度新学期をスタートさせられたことは、高く評価できる。入学経路の実態把握、その妥当性の検証については今後の継続的な活動が期待される。また、オープンキャンパスから拡大したデザインスクールの成果についても、今後期待したい。

IV 2019年度中期目標・年度目標

No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
1	中期目標	1)カリキュラムポリシーの見直しを行い、開講科目の体系を再構築する 2)高学年における英語教育のあり方について検討する
	年度目標	1)2018年度に大幅改編した基盤教育の実効性について継続的に検証し改善に結びつけるための所管委員会を整備する 2a)中期の海外英語研修日程に加え、サマーセッションやオースタムセッションを利用した短期研修の可能性を検討する 2b)一部の専門科目での英語利用について検討を開始する
	達成指標	1)基盤教育に関する所管委員会の立ち上げ 2a)検討結果の共有（教授会） 2b)英語利用の方法と対象科目について立案
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
2	中期目標	1)効果的な実習のための造形製作室の再整備を検討する 2)自動集計システム「授業支援ボックス」と授業支援システムを活用した授業方法の検討
	年度目標	1)特別事業（備品等購入）による造形製作室の整備を完了し、利用規則を整備する 2)引き続き「授業支援ボックス」を利用し、活用上の課題を把握する
	達成指標	1)造形製作室の供用を開始するとともに、利用規則を随時改善する 2)「授業支援ボックス」の利用状況について共有（教授会）
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
3	中期目標	稼働中の学習達成度評価システムの見直しを行い、より使いやすいシステムの再構築
	年度目標	システムの継続的な見直しを行う所管委員会を整備し、運用状況の検証を行う
	達成指標	所管委員会により、システムの運用状況を把握し必要に応じて修正する
No	評価基準	学生の受け入れ
4	中期目標	多様な入試経路で受け入れた学生の学びに対する実態を把握し、入試経路の妥当性を検証する
	年度目標	学生の学びに対する実態把握に必要な入学前後の教育の在り方については、継続審議となっており、学生の負担や予算への影響が大きいことから早期に結論を得るように検討を進める

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

	達成指標	—
No	評価基準	教員・教員組織
5	中期目標	基盤教育の新しいあり方に沿った専任教員の配置と、適切な年齢構成への移行
	年度目標	別2教員9名（5名の凍結と4名の返還）の内、4名の返還が解除されたため、教員の配置と年齢構成に配慮した人事計画の見直しを進める
	達成指標	学科毎の人事計画の立案と共有（教授会）
No	評価基準	学生支援
6	中期目標	学生への掲示情報量が増加傾向にあるため、校舎内での情報伝達方法の適正化を図る
	年度目標	現状では分散されている掲示の一元化およびデジタルサイネージの導入を検討する
	達成指標	校舎内の掲示計画の立案
No	評価基準	社会連携・社会貢献
7	中期目標	オープンキャンパス時に実施しているデザインスクールなどの公開講座を見直し、受験生だけでなく、社会貢献を意識した一般人を対象とする講座への展開を検討する
	年度目標	受験生に限定しない内容とするために、3学科毎に行われていた企画運営に代え、デザイン工学部として毎年度のテーマを定めたデザインスクールを開催する
	達成指標	アンケートを活用するなどしたデザインスクールの評価を次年度の内容に反映する
【重点目標】		
別2教員4名の凍結解除を受け、基盤科目と専門科目の相互性強化を目標とした適正な教員配置を計画する		

【2019年度中期・年度目標に関する大学評価】

学生の学びをサポートする設備・システム（造形製作室、自動集計システム「授業支援ボックス」、掲示の一元化およびデジタルサイネージの導入）については、即効性も見込まれる目標なので、大学との関係で早急に実現することが望まれる。社会貢献については、オープンキャンパスに限定することなく、機会の多様化と増加が望まれる。

デザイン工学部の2019年度中期・年度目標は重点目標も含め、おおむね適切かつ具体的に記述されていると評価できるが、いくつかの項目の「達成指標」に見られる「教授会での共有」という記述は、指標として適切であるか疑問を感じた。教授会での情報共有はあくまでプロセスであり、「教授会で共有」することで「***」する、という記述が望ましいと考える。

【法令要件及びその他基礎的要件等の遵守状況】

特になし

【大学評価総評】

デザイン工学部の教育課程及びそれを支える教員組織については、各点検項目においてそれぞれ高いレベルで達成されていることが確認できる。特に、履修の手引きと「導入ゼミナール」は、新生を正しい学びの方向に導くうえで秀逸なツールであると評価できる。建築学科で導入されている CARESS（履修支援システム）、システムデザイン学科が2017年度から移行したという「デ工学習支援システム」などは、学科の独自性という点での存在意義も大きい。学科を超えた共有が可能ならば、さらに素晴らしいシステムとなるのではないかと。それに関連して、学部全体で導入・更新されている「学習達成度自己評価システム」の活用状況について、都市環境デザイン工学科では学生に自己評価結果を提出させ教員が内容を確認している。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。